

## オンライン授業に関するアンケート

日本科学哲学会ニュースレター

今年度はコロナ禍のために各教育機関が急遽、オンライン授業を大幅に導入することとなり、各教育機関で授業を担当している多くの学会員の皆さんも、オンライン授業の導入・実施で悪戦苦闘されたことと思います。当ニュースレターでは、皆さんの経験を大学等高等教育機関での今後の哲学教育の改善に活かすべく、オンライン授業に関するアンケートを実施しました。ご協力下さった皆様、有難うございました。

★実施対象：大学や高等専門学校・専門学校等の高等教育機関における哲学関連科目（論理学を含む）の後期授業担当者

★実施期間：2021年2月3日～2月17日、2月24日～2月27日

★実施形態：無記名

★有効回答（無記名回答者）数：50

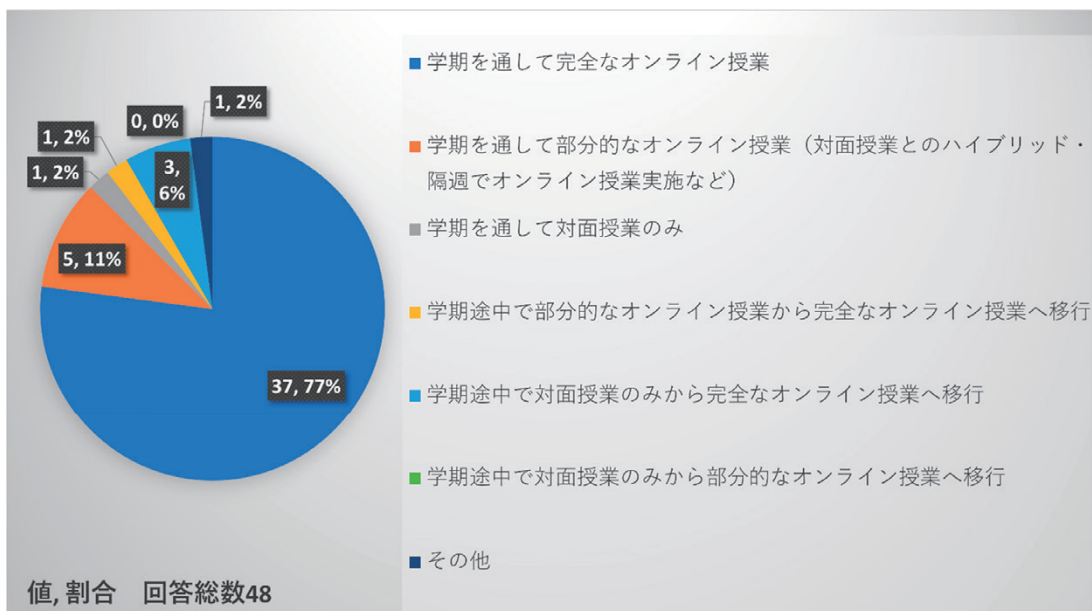
### ★補足説明

- ①今年度の前期と後期とでは、オンライン授業の実施の仕方に違いがある場合もあるかと思えます。そこで、本アンケートでは、各教育機関・各教員が試行錯誤を経た後である後期に授業を担当した方に絞ってご回答頂くことにしました。後期に授業を担当していない方には、ご回答の機会がないことになってしまいましたが、何卒ご容赦下さい。
- ②後期に授業を担当した方の中には、オンライン授業を全く実施しなかったという方もいらっしゃるかもしれません。そのような方にも、その旨をご回答頂く質問項目や記述式で自由にご回答頂ける質問項目を設けました。
- ③複数の教育機関で授業を担当した場合、教育機関によって授業の実施の仕方に違いがある場合もあったかと思えます。そのような場合には、本務校や最も多くの授業を担当している主な教育機関での授業に関して、ご回答頂きました。

### ■問1～3：講義形式の授業に関する質問

（以下では、講義形式の授業に関してご質問します。今年度後期において講義形式の授業を担当した方のみ回答して下さい。講義形式の授業でオンライン授業を全く実施しなかった方は問1にのみ回答して下さい。）

問1：担当した講義形式の授業でオンライン授業はどの程度、実施されましたか？<sup>1</sup>



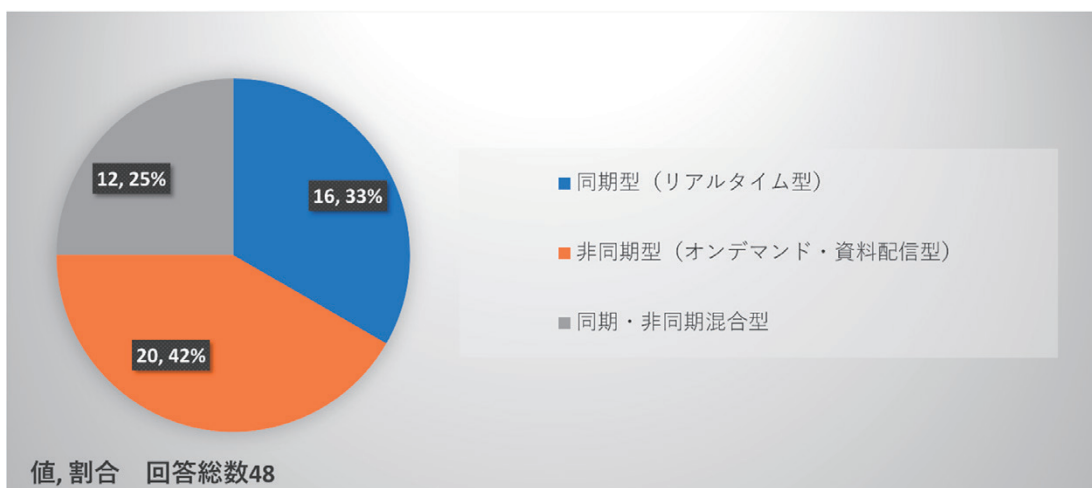
**その他の回答**

・完全なオンライン授業の科目も、部分的にオンライン授業の科目もありました。

**【結果概要】**

- ・75%以上が「学期を通して完全なオンライン授業」でした。
- ・2020年度後期の後半には新型コロナウイルス感染症の第三波が到来しましたが、学期途中でオンライン授業の実施程度が変化することは多くなかったようです。

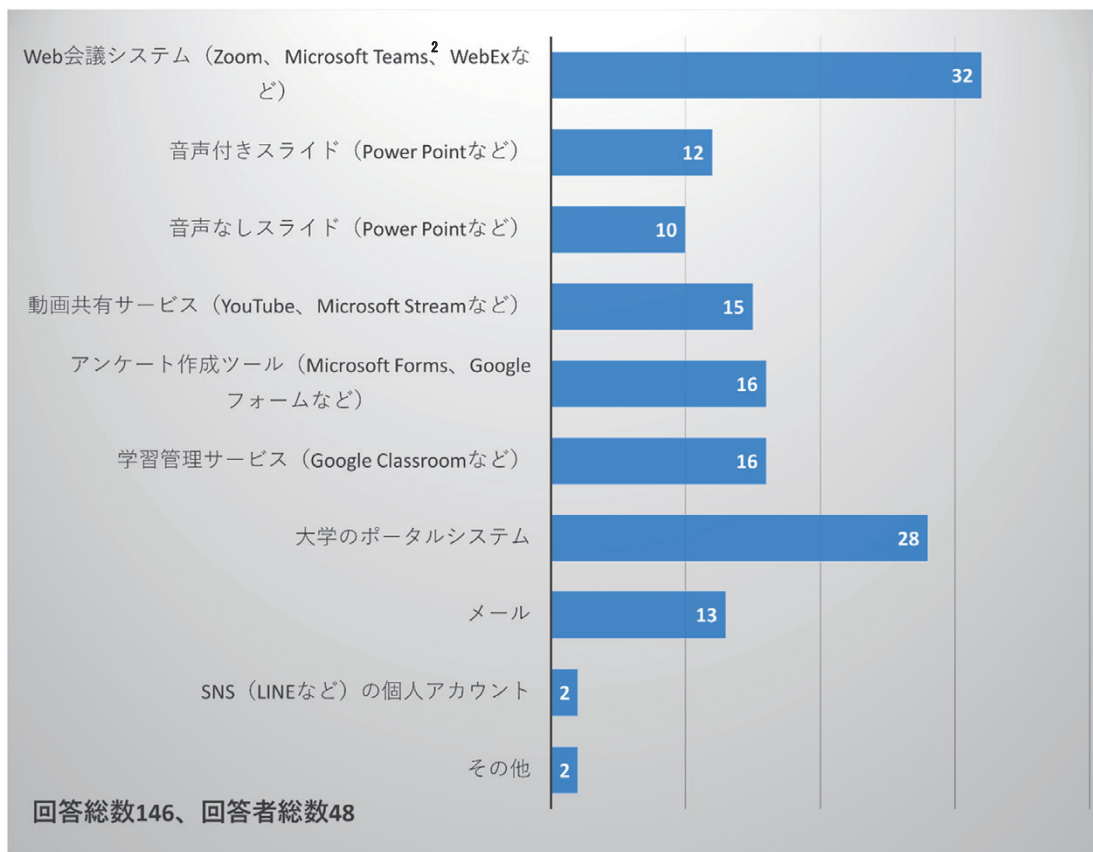
問2：講義形式のオンライン授業で選択した基本的な形態はどれですか？



### 【結果概要】

・特定の型が群を抜いて多数を占めるということはありませんでしたが、「非同期型」が最多でした。

### 問3：講義形式の授業で主に利用したサービス・ツールは何ですか？（複数回答可）



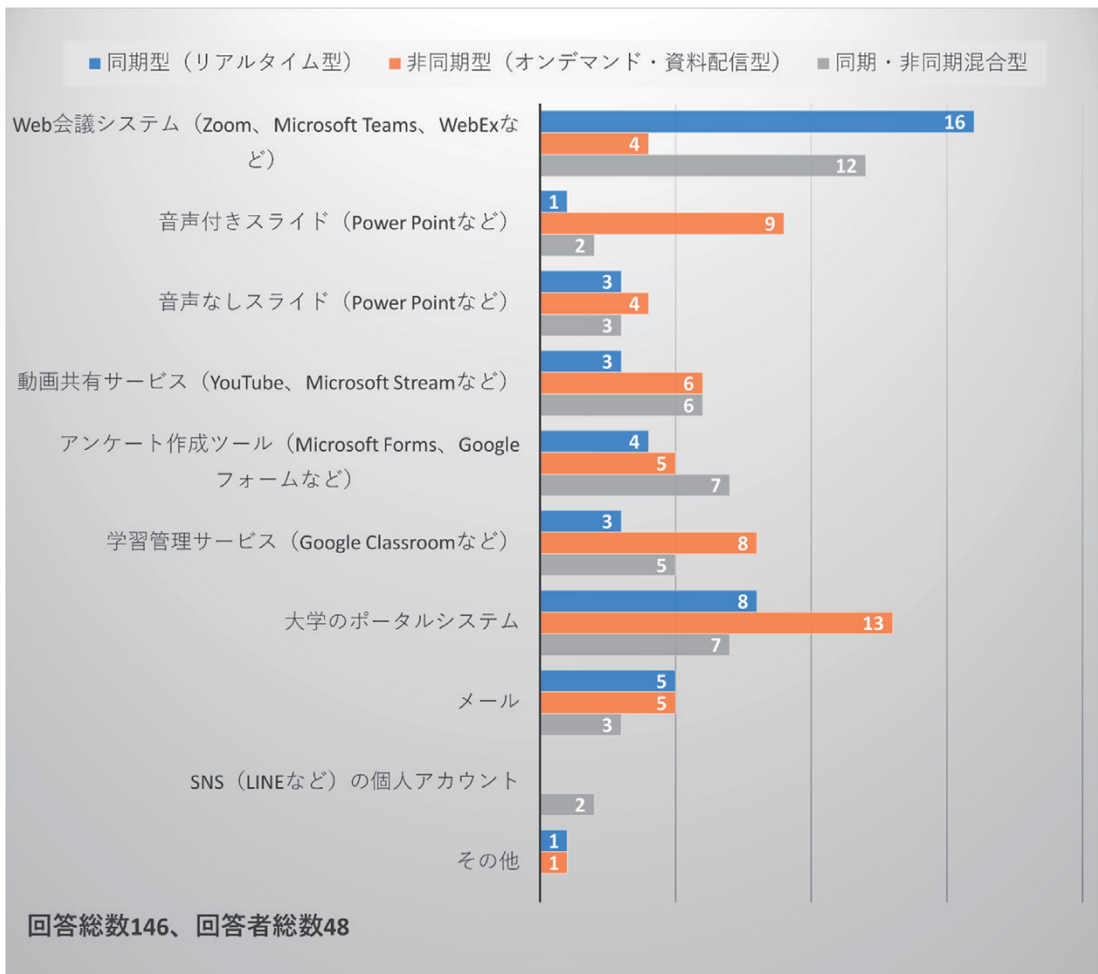
### その他の回答

- ・講義動画を Dropbox 共有で発信。
- ・jam board、ペンタブ、ipad など。

### 【結果概要】

- ・「Web 会議システム」と「大学のポータルシステム」の利用者が特に多く、回答者総数の半分以上を占めました。
- ・その他の回答の中には、ペンタブレットを利用したという回答も見られました。

## 【問 2×問 3 のクロス集計】



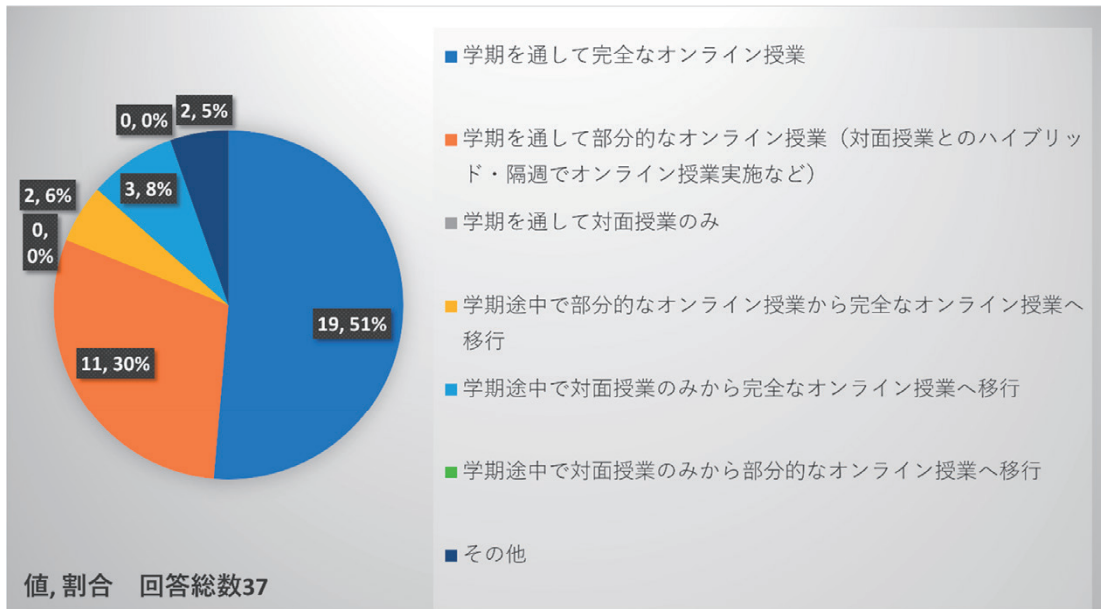
## 【結果概要】

- ・「Web 会議システム」は、「(混合型)を含めて」「同期型」で特に多く利用され、「音声付きスライド」や「学習管理サービス」、「大学のポータルシステム」は、「非同期型」で特に多く利用されました。

## ■問 4～6：演習（ゼミ）形式の授業に関する質問

（以下では、演習（ゼミ）形式の授業に関してご質問します。今年度後期において演習（ゼミ）形式の授業を担当した方のみ回答して下さい。演習（ゼミ）形式の授業でオンライン授業を全く実施しなかった方は問 4 にのみ回答して下さい。）

問4：担当した演習（ゼミ）形式の授業でオンライン授業はどの程度、実施されましたか？<sup>3</sup>



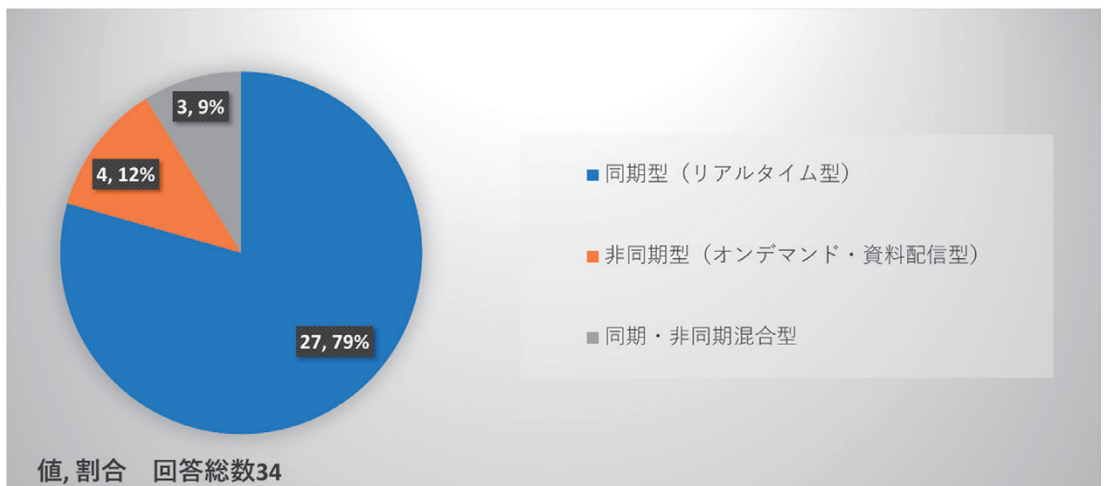
その他の回答

- ・大学院はオンライン、学部は対面でした。

【結果概要】

- ・講義形式の授業に比べて、「学期を通して部分的なオンライン授業」の割合が多く、また、「学期途中で部分的なオンライン授業から完全なオンライン授業へ移行」や「学期途中で対面授業のみから完全なオンライン授業へ移行」の割合が一定程度あり、講義形式の授業と比べると対面授業を実施するケースが多くあったようです。

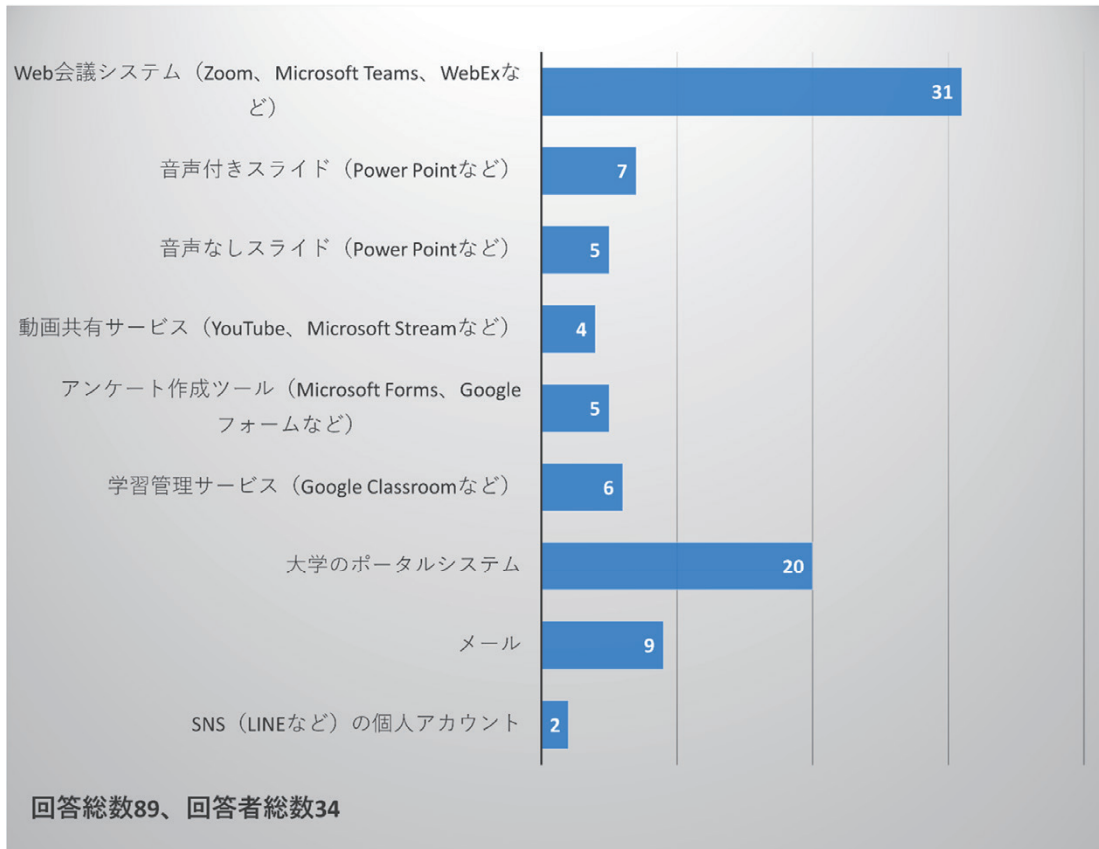
問5：演習（ゼミ）形式のオンライン授業で選択した基本的な形態はどれですか？



### 【結果概要】

- ・ 講義形式とは異なり、80%近くを「同期型」が占めました。

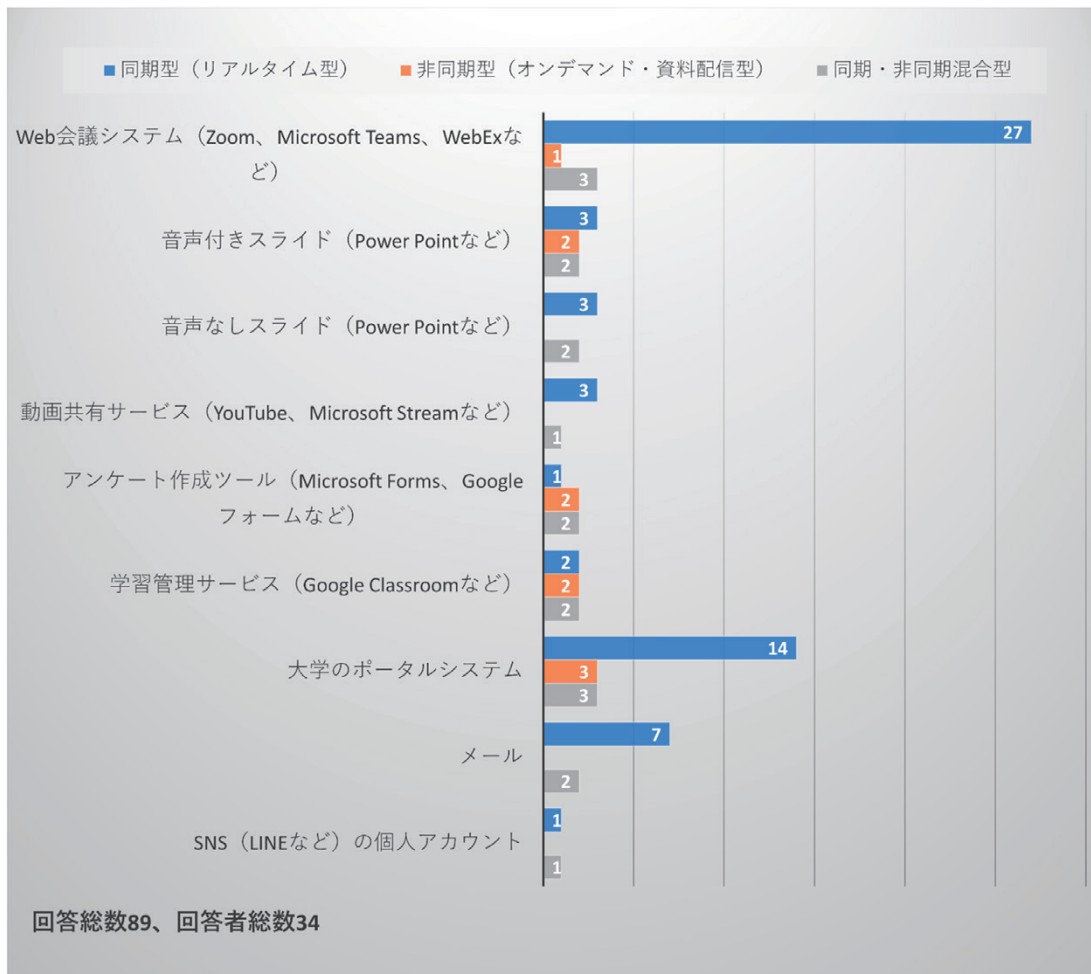
### 問 6：演習（ゼミ）形式の授業で主に利用したサービス・ツールは何ですか？（複数回答可）



### 【結果概要】

- ・ 講義形式と同様に、「Web 会議システム」と「大学のポータルシステム」の利用者が多く、前者は回答者総数の 90%以上を占めました。

## 【問 5×問 6 のクロス集計】



## 【結果概要】

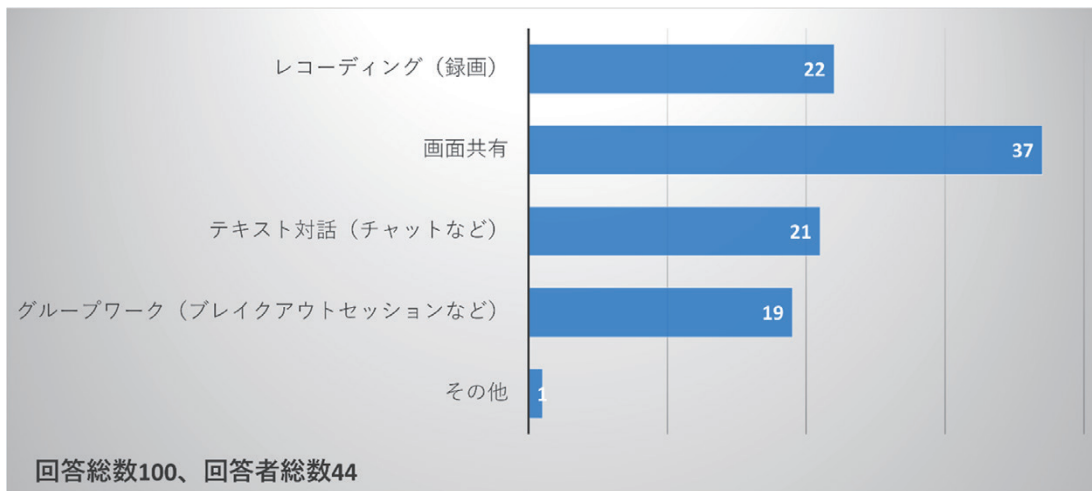
- ・非同期型では、「音声なしスライド」や「動画共有サービス」、「メール」、「SNS の個人アカウント」の利用がありませんでした。

## ■問 7～20：オンライン授業全般に関する質問

（以下では、煩雑さを避けるため、講義形式の授業と演習（ゼミ）形式の授業に場合分けせずに、オンライン授業全般に関してご質問します。今年度後期においてどちらの形式でもオンライン授業を実施しなかった方は回答する必要はありません。ただし、そのような方でも、記述式の問 17～20 に関しては、ご記入頂ける点があればご回答下さい。）



問7：Web会議システムで主に利用した機能は何ですか？（複数回答可）  
（Web会議システムを利用した場合にのみ回答して下さい。）



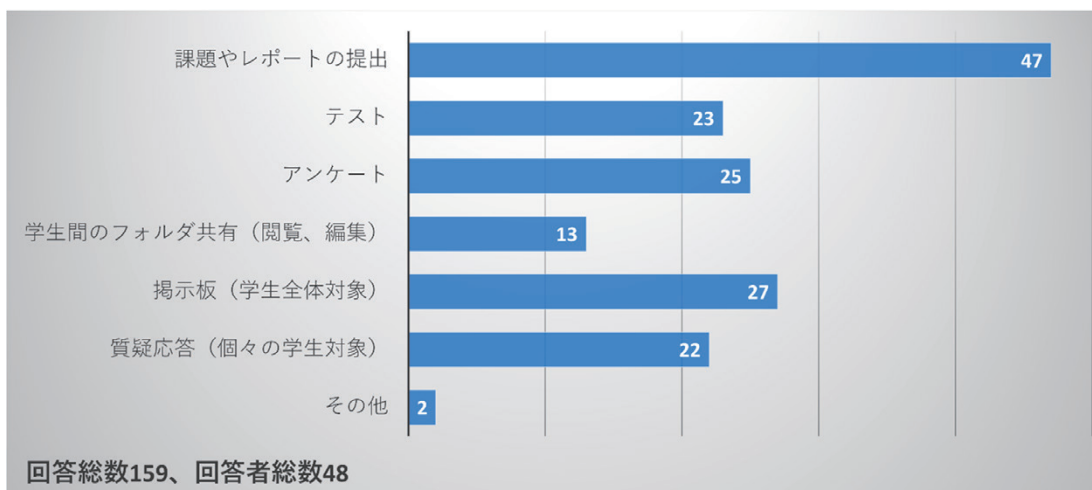
**その他の回答**

- ・ Zoom の投票機能。

**【結果概要】**

- ・ 最も多かった「画面共有」の利用者数は、回答者総数の 80%以上を占めました。

問8：学習管理サービスや大学のポータルサイトで主に利用した機能は何ですか？（複数回答可）  
（学習管理サービスや大学のポータルサイトを利用した場合にのみ回答して下さい。）



**その他の回答**

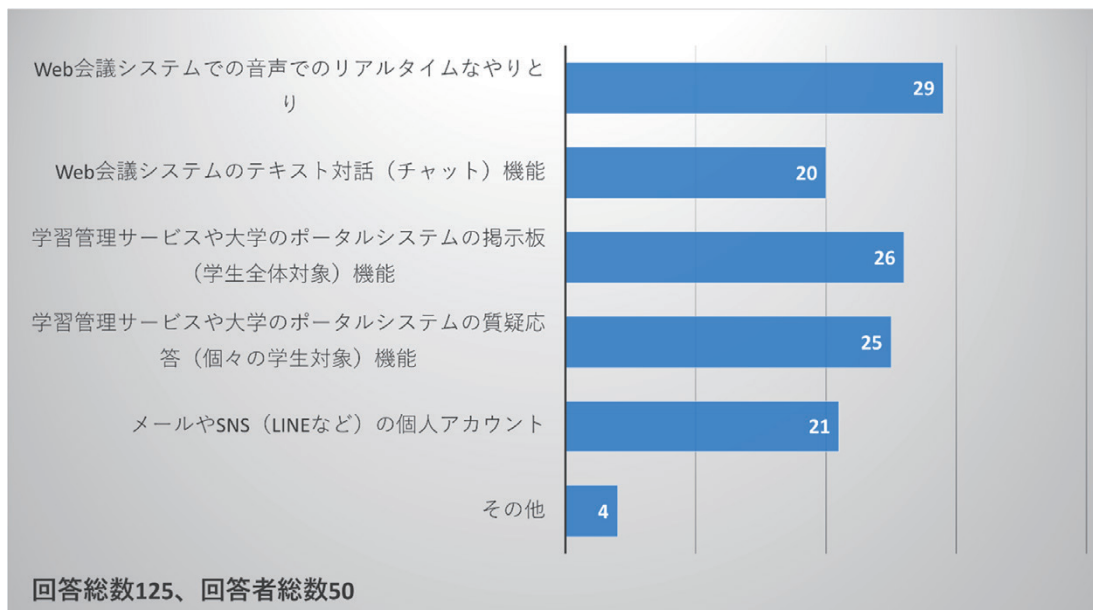
- ・ 音声入りスライドのアップ、フォーラム機能を用いた学生同士の議論。
- ・ 資料配布。



### 【結果概要】

- ・「課題やレポートの提出」は、回答者のほぼ全員が利用していました。
- ・また、その他の回答として「音声入りスライドのアップ」や「資料配付」も見られましたが、これらは選択肢として予め提示されていれば、多くの回答者が選んだ機能であったかもしれません。

### 問9：学生とのコミュニケーションにおいて主に利用したものは何ですか？（複数回答可）



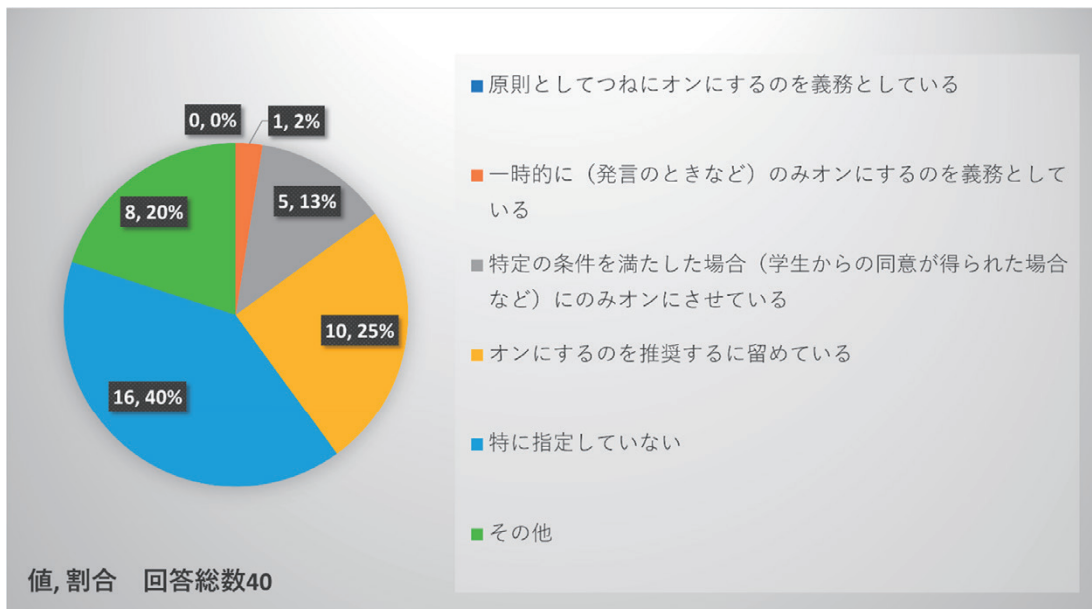
### その他の回答

- ・Zoom の投票機能。
- ・授業動画内で、質問を取り上げて答える。
- ・アンケートフォーム等から送信された質問に対し、次回に文章や口頭で回答。
- ・グーグルフォームによるリアクション・ペーパーに対し、いくつか選びだしたものを、次週講義で説明。

### 【結果概要】

- ・際だって多くの利用者がいた手段はありませんでしたが、いずれの選択肢も回答者の半数前後を占めました。
- ・回答者一人あたりの利用手段は 2.5 個であり、多くの回答者が複数の手段を利用していたと思われます。
- ・その他の回答を見ても、多様なコミュニケーション手段があることがわかります。

問 10 : 学生のカメラをオンにさせるかどうかについてどのように対応していましたか？  
(同期型の形態でオンライン授業を実施した場合にのみ回答して下さい。)



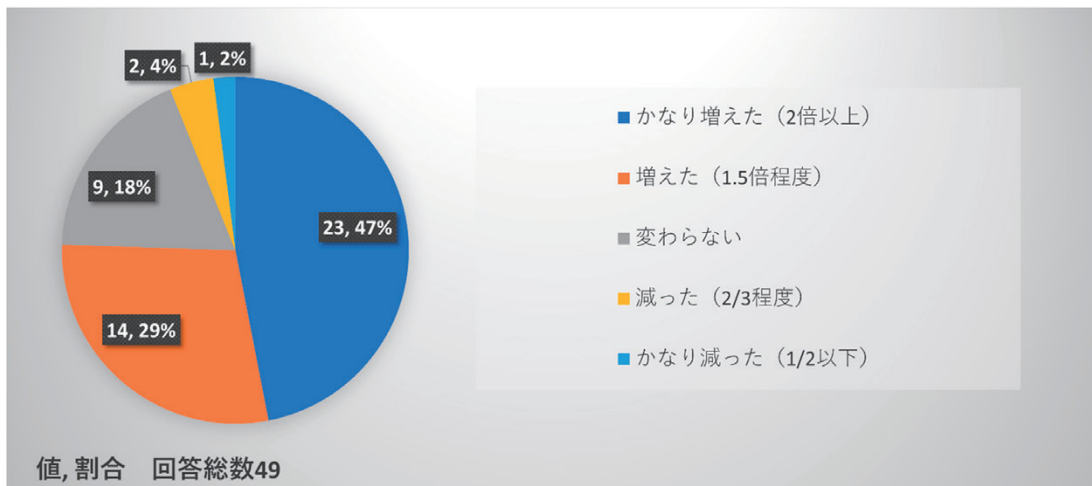
**その他の回答**

- ・ 講義はオフ。演習も基本はオフ。大学院対象の発表形式の演習では発表後の質疑応答の時間は学生が希望する場合はオン（結果的に全員の学生がオンにしていました）。
- ・ 基本的にオフにしてもらった。
- ・ 学生側のカメラはオンにしないよう大学側から通知があった。（プライバシーの関係で。）
- ・ カメラオンは不可。
- ・ 原則オンは不要としている。
- ・ オフで構わないと伝えている。
- ・ 原則オフにする。（学内で画像を悪用する事例があったため。）
- ・ カメラをオフにすることを標準とし、希望があった場合のみカメラをオンにしてもらっています。プライバシーへの配慮、ハラスメント防止がその理由です。合理的な理由なく授業で学生のカメラをオンにさせるのはむしろ問題だと思います。

**【結果概要】**

- ・ (当然、予想されたことですが)「原則としてつねにオンにするのを義務としている」という回答はありませんでした。
- ・ その他の回答を見ると、「特に指定していない」に留まらず、「オフとすることを原則とした」というケースが少なくなかったことがわかります。

問 11：対面授業の場合と比べて、授業の準備やフィードバックのための時間は変化しましたか？

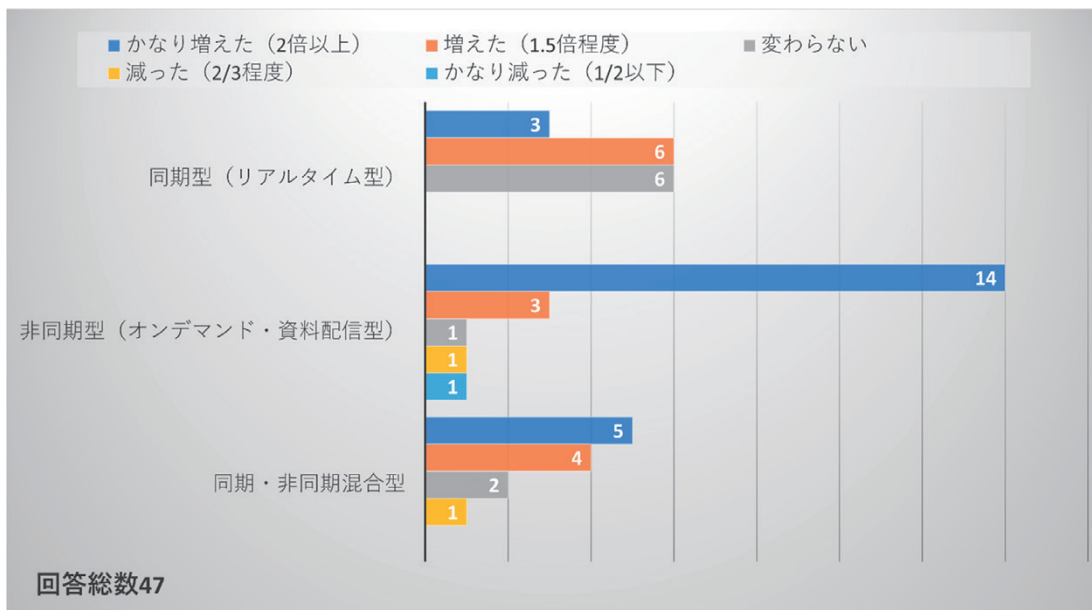


【結果概要】

- ・「かなり増えた」と「増えた」で75%以上を占めました。
- ・他方で「減った」、「かなり減った」という回答も見られました。工夫次第で負荷を減らすことも可能だということでしょうか。

【問 2（講義形式のオンライン授業で選択した基本的な形態）×問 11 のクロス集計】

※参考（問 11 は講義形式のオンライン授業に限定した問ではないため）

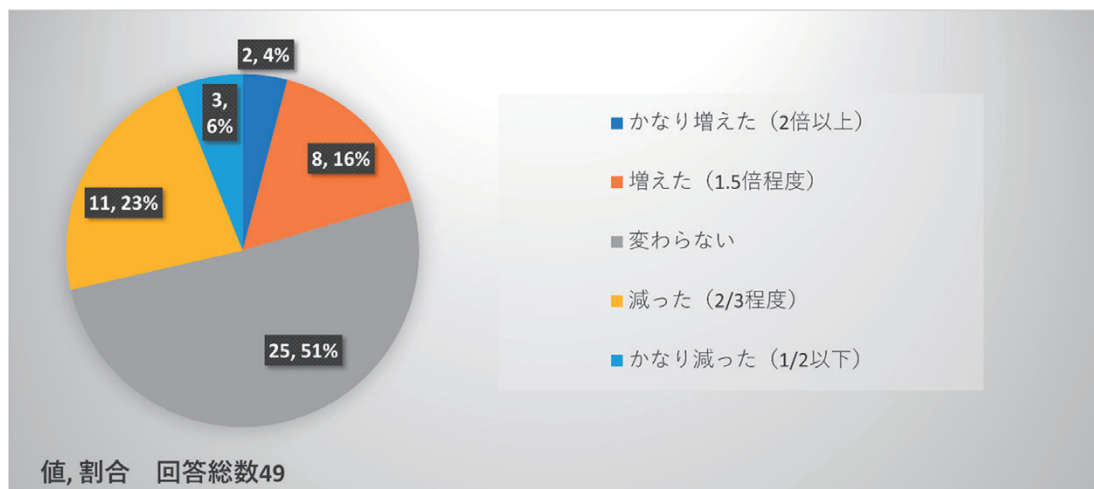


【結果概要】

- ・「かなり増えた」という回答は「非同期型」で極めて多く見られた一方で、「同期型」ではあまり見られませんでした。
- ・他方で「減った」、「かなり減った」という回答も「同期型」では全く見られず、「非同期」を含む

「非同期型」と「混合型」でのみ見られました。

問 12：対面授業の場合と比べて、教員と学生とのコミュニケーションの量は変化しましたか？

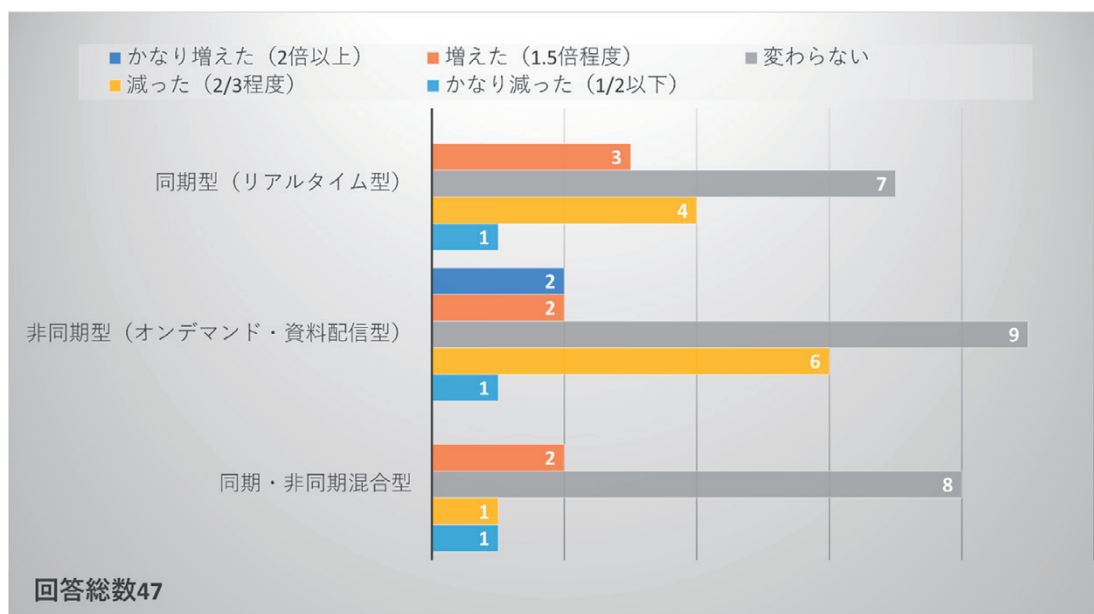


【結果概要】

・「かわらない」という回答が大半を占めるものの、「かなり増えた」および「増えた」も、「かなり減った」および「減った」もある程度の割合を占め、回答が割れる結果となりました。これも工夫次第でコミュニケーション量を減らさずに済むということでしょうか。

【問 2（講義形式のオンライン授業で選択した基本的な形態）×問 12 のクロス集計】

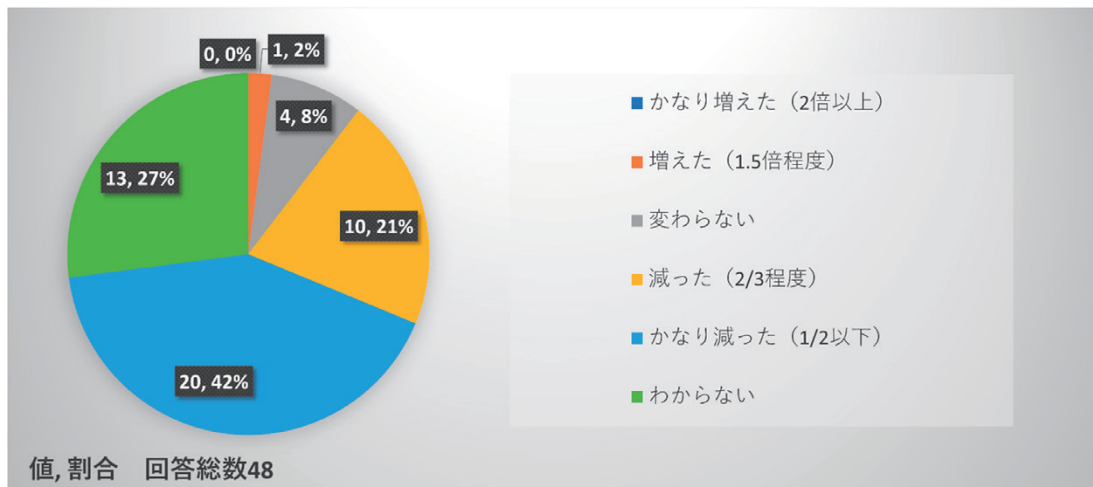
※参考（問 12 は講義形式のオンライン授業に限定した問ではないため）



### 【結果概要】

・「変わらない」が大半を占めるものの、「かなり増えた」および「増えた」も、「かなり減った」および「減った」もある程度の割合を占めるという傾向は、どの型においても見られました。

### 問 13：対面授業の場合と比べて、学生同士のコミュニケーションの量は変化しましたか？

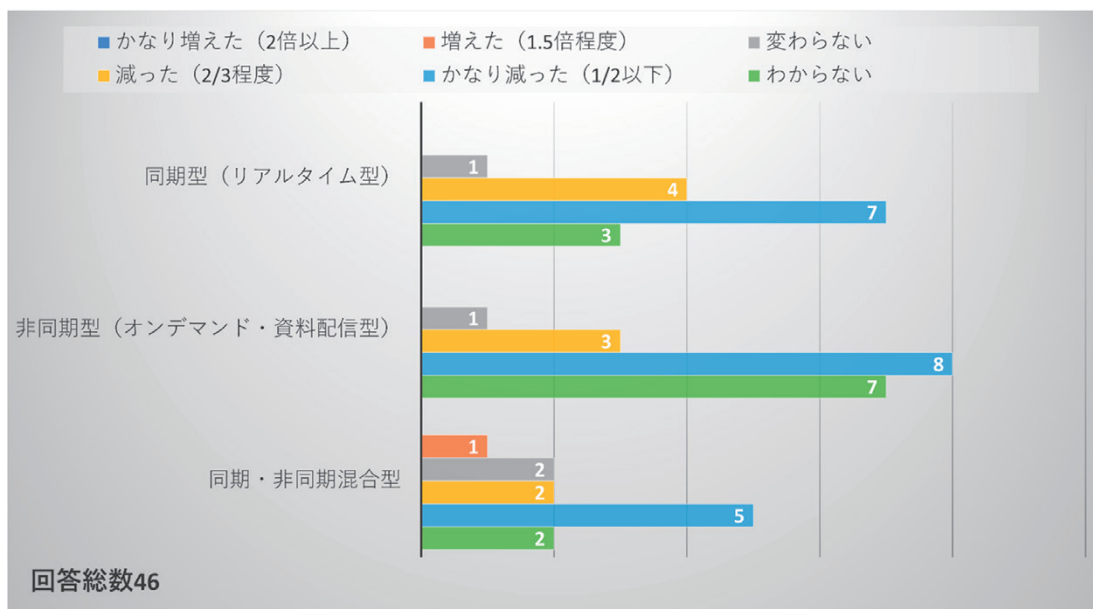


### 【結果概要】

・「わからない」が一定の割合を占めたのは仕方ないとして、積極的に「減った」および「かなり減った」とする回答が半数近くを占めました。これはおそらく、少なくとも授業時における学生同士のコミュニケーションの量が減少したということの意味するものと思われます。

### 【問 2 (講義形式のオンライン授業で選択した基本的な形態) × 問 13 のクロス集計】

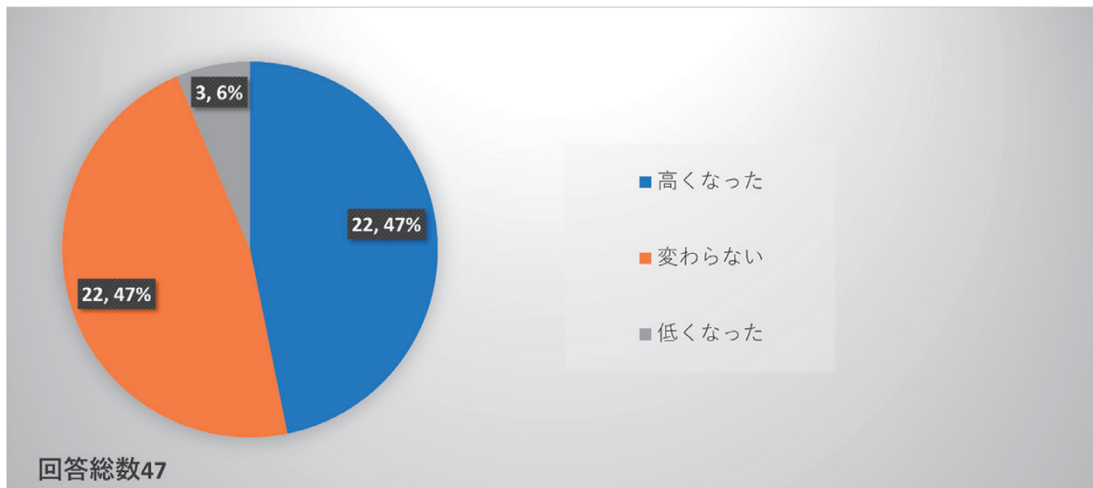
※参考 (問 13 は講義形式のオンライン授業に限定した問ではないため)



### 【結果概要】

・「わからない」という回答は、学生との直のコミュニケーションがとれない「非同期型」にとりわけ多く見られました。

### 問 14：対面授業の場合と比べて、学生の学習効果・理解度は変化しましたか？

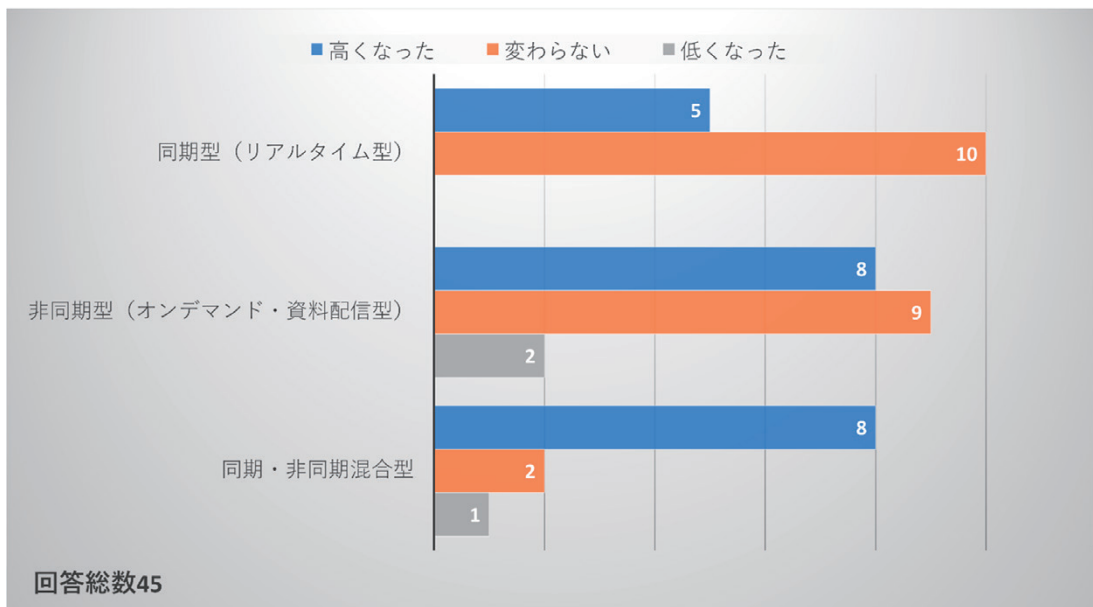


### 【結果概要】

・「低くなった」という回答はほとんど見られず、「高くなった」という回答の割合が 50% 近くを占めました。

### 【問 2（講義形式のオンライン授業で選択した基本的な形態）×問 14 のクロス集計】

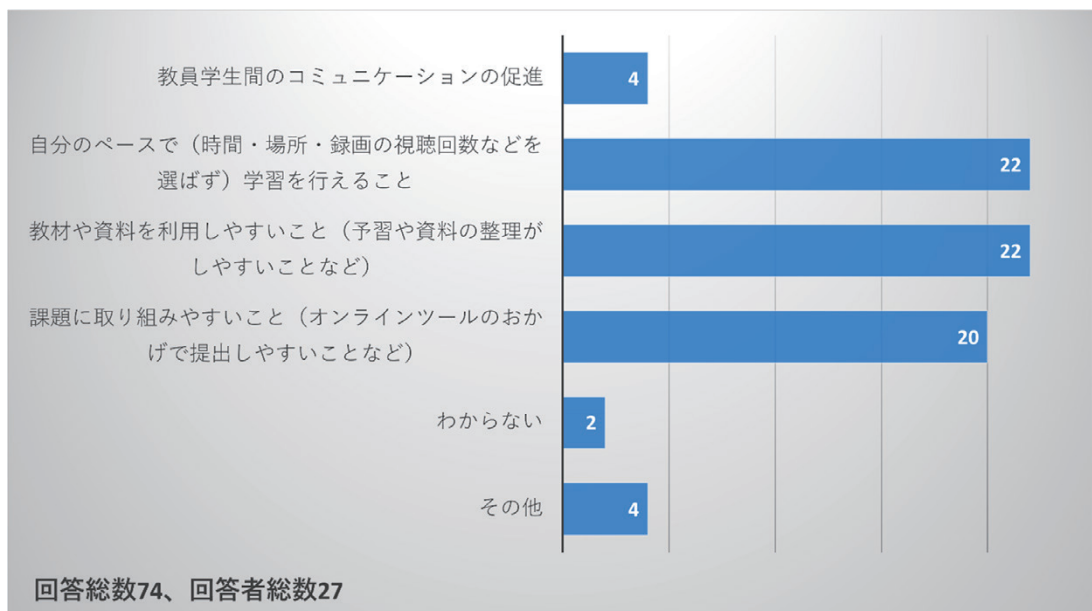
※参考（問 14 は講義形式のオンライン授業に限定した問ではないため）



### 【結果概要】

- ・「混合型」では「高くなった」という回答の割合がとりわけ多くなりました。同期と非同期の両方を利用することで、より高い効果が得られるということでしょうか。

問 15：学習効果・理解度が高くなった原因は何だと考えられますか？（複数回答可）  
（問 14 で「高くなった」と回答した場合にのみ回答して下さい。）



### その他の回答

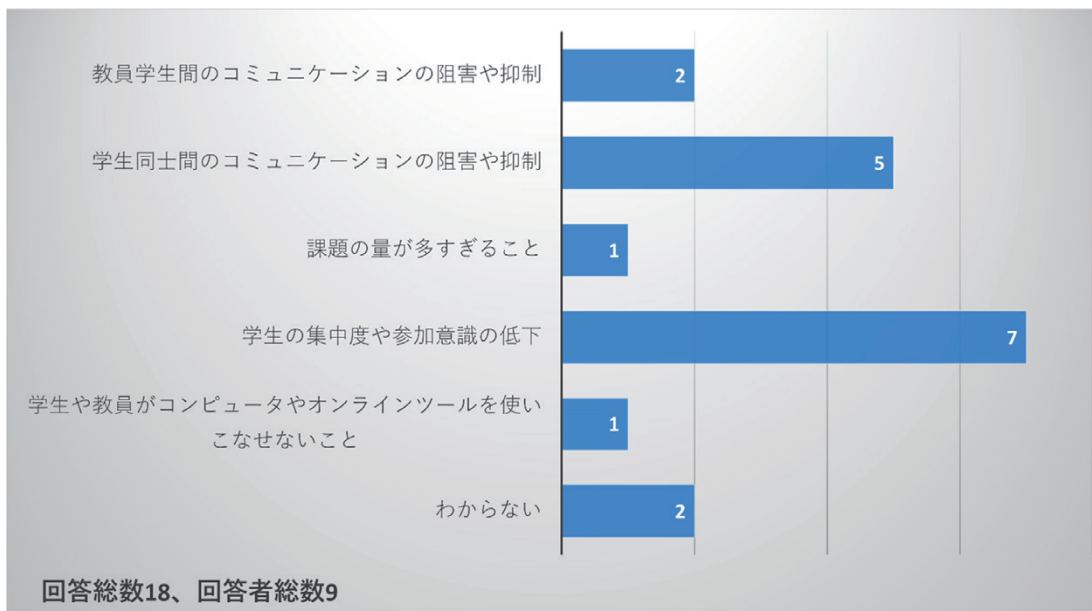
- ・講義の場合は授業素材を繰り返し見ることができる。外国語を用いた演習では画面共有機能を用いて、英語テキストと学生のレジメをならべて表示することにより、説明しやすい。授業時間外の掲示板での学生同士の議論の活発化など。
- ・オンラインで授業を実施するというのが初めての試みであったため、教員としては一つ一つ丁寧に準備をしたが、対面では多少の「慣れ」もあり、そのような綿密さが欠けていたのかもしれない。
- ・配信される学習コンテンツにしっかり取り組み、また毎回の課題もこなしたため。
- ・コミュニケーションや外出に不安のある学生が授業に取り組みやすくなった点。

### 【結果概要】

- ・「自分のペースで学習を行えること」や「教材や資料を利用しやすいこと」、「課題に取り組みやすいこと」など、オンライン授業ならではの要因を選ぶ回答が多くなりました。



問 16：学習効果・理解度が低くなった原因は何だと考えられますか？（複数回答可）  
（問 14 で「低くなった」と回答とした場合にのみ回答して下さい。）



#### 【結果概要】

- ・回答総数があまり多くなかった中で、「学生の集中度や参加意識の低下」を選んだ回答が最も多くなりました。

問 17：特に哲学教育にとってオンライン授業の良い点や悪い点があれば、以下に記入して下さい（最大 500 字程度）。

#### 回答の一部を抜粋

- ・論理学ですが、動画教材は、知識教授部分の時間をコンパクトにできて、しかも定義や証明の説明を繰り返し見られて最高だと思います。
- ・Zoom などはグループ分けが対面時よりも圧倒的に容易であるため、その点はグループディスカッションなどがやりやすい面があった。また、チャット機能も学生としては気軽に使えるツールであるため、多少、教員と学生のコミュニケーションの頻度が増したような気がする（その分、授業終了後に質問者がいろいろと聞いてくる、という機会は多少失われたかもしれないが）。
- ・LMS [=学習管理システム：引用者挿入]の掲示板機能を用いて、指定のテーマについての意見、授業の感想や疑問を書いてもらい、受講者同士でリプライをつけるという課題を複数回行った。例年行っている教室でのグループディスカッションの代わりに実施したが、ある程度時間をかけて掲示板に書いてもらった文章の方が、教室での即座のやり取りよりも、投稿もリプライも、内容がよく考えられていたように思う。記録として残ることや、受講生全体の意見の共有が容易なこと、やり取りを追いやすいことは、良い点だと思う。
- ・チャット形式で意見を集めることができるのが利点。チャットならではの、少し考えた意見を集められる。

- ・各回に学生に課す課題の回答が、以前よりもよく考えられていて面白くなりました。もちろん、全員がそうなったわけではないのですが。以前は、毎回の授業ごとに回答用紙を配布し、次の授業で回収していました。この場合、授業の最中か直後にすぐに終わらせてしまうか、次の授業の直前にあわてて記入するか、いずれかのパターンが多かったものと思われます。それが、オンラインになり、十分に時間をとって書く学生が増えたようです。
- ・哲学系の学生は個性的な人や他人との交流が苦手な人、さらには精神的に不調になりやすい人なども少なくないため、外に外出せずにすむというのは、哲学教育上きわめて効果的であった。
- ・教室では質問する勇気のない学生諸君もオンラインでは比較的気楽に質問できる。
- ・学生から見ると、対面に比して、一対一の受講をしている意識が強い。質問が活発に出てくるようになった。一方、グループワークが苦手な学生は、ブレイクアウトなどでも発言しにくい面がある。
- ・授業に対する質問の内容や数が授業（議論など）の進行を左右するので、人目を気にせず気軽に質問できる点ではオンラインの長所があると思う。しかし学生同士の円滑な議論となると対面時と同様の質を確保するのが現状では困難であるように感じる。
- ・他の分野（フィールドワークや実験系）に比べて哲学分野はオンライン授業と相性がよいと思います。もっとも学部と大学院ではかなり「温度差」があって、大学院ではオンラインでの演習や講義に対して院生があまり抵抗感を感じないのに対して、学部生は対面でないといやだ、という声がかなりありました。プレゼンや質疑のノウハウ（質問をするタイミングなど）などがオンラインではうまく学べないようです。また哲学系の大学院生は一人で研究するのに慣れているようですが、学部生は周囲に仲間がいないとモチベーションがあがらないと言っています。オンラインでの議論にも慣れないようです。
- ・議論への不参加が容易。
- ・通信量負担を考えると、動画・音声を使う必然性の強い他科目（語学等）に比べれば資料配布が推奨されると思うが、その場合どうしても学生に文章を読んでもらう量が多くなり、そもそも文章を読んで議論を追う能力のない学生にとっては授業内容についていくのが大変になると考えられる。だが、逆にこれまで対面授業で本当に十分な理解を得られていたのかという点についても改めて問い直す必要があると思う。
- ・大人数の授業のさいにはオンデマンド式にならざるをえないが、講義内容に対する自己言及（補足、言い直し、自己批判など）の表現や伝達が難しかった。資料作成をしながらそのメタコメントを含めることの難しさがあったのだと思う。しかしリアルタイムでも、やはり困難だったのは、教室授業のときに許された「間」みたいなものをとる余裕がどうもとれなかったからだと思う。

### 【結果概要】

- ・良い点として、主に、オンライン授業における学生とのコミュニケーションの取り方に関するさまざまな利点や工夫が紹介されていました。
- ・他方で、オンライン授業特有のコミュニケーションの壁の存在を示唆する回答も見られます。
- ・また、哲学特有の言語情報を正確に伝達することに伴う利点と難点の両方も指摘されています。

**問 18：オンライン授業について他の感想（以上の質問項目に関連しない良い点や悪い点など）があれば、以下に記入して下さい（最大 500 字程度）。**

### 回答の一部を抜粋

- ・授業の質は良くなったのではないかと思います。実際、授業評価アンケートの結果も良くなっていました。オンデマンド型の動画を作成する方法で授業を行いました。やはりあまりいい加減なものを公開するわけにいかないため、試行錯誤の末、スライドだけではなくほぼ完全な原稿を用意し、スライドに合わせて原稿を読み上げて動画を作成する方式に落ち着きました。準備に膨大な時間がかかりましたが、それなりに完成度の高い動画と原稿が手元に残り、今後も資産として活用したいと思っています。
- ・ipad 上の jam board と連動させて板書に近いことができるようになってからは、授業が随分と楽になった。試験における証明問題は、手書きの証明を写真で送らせることで問題なくやれた。
- ・多くはないと思うが、オンライン授業でいつもより研究の時間がとれるようになった、というような声も聞いた。そうした声を聴くたびに、非常に複雑な思いをもった。真面目にやろうとすれば、オンライン授業の方が準備に時間がかかると思うし、たとえば全学センターに所属していれば、全学のオンライン授業のサポートなども業務として加わるので、とくに前期は、研究の時間をとるなどということは全くありえない状況だったという話も聞いた。誰がどのような状況で大変になっているのか、何しろ初めてのことでよく分からないので、とくに若手に対して、まだしばらくこうした状況は続くため、できるかぎりの配慮が必要だと思った。
- ・オンライン授業の質を上げようとすると、各種機材の導入や技術の習熟などキリがない。週に何コマもこなすような場合、改善の余地はあってもどこかで割り切りしないと研究時間の確保が困難になる。
- ・対面授業においては自分が「なんとなく」用いている基準で学生の反応をみて、「これはうまくいっているな」「学生はよくわかっていないのかな」などと判断していたが、オンラインの場合学生の表情が見えないためそれができない。ただ、その分、ミスリードかもしれない視覚情報に頼らずに、学生の実際に発する声や書くものから客観的に学生の理解度などを良く測れるようになった気がする。
- ・レポートは教員と受講生の双方にとって負担になる傾向がある。
- ・対面とオンラインのハイブリッド授業は少なくとも教員1名だけでは無理がある。
- ・試験実施の工夫が必要。特に内容理解を確認する問題はカンニング対策が困難。
- ・学生のカメラは常時オンにさせるべき。ゆき過ぎた配慮は教育活動を阻害する。
- ・他の授業では、教員が哲学書を数ページ写真にとってアップロードし、それに関する感想を書くだけのものがあったという話を学生から聞いた。いくら何でもひどすぎると思った。
- ・一部の科目ではオンライン授業を実行することをコロナ禍以降も許可したらよいと思う
- ・教材はレジュメにしても動画にしてもすべて電子化・オンライン化できますが、それを通して逆に、演習やフィードバックに答える教師の存在の重要性がはっきりとしたと思います。

### 【結果概要】

- ・オンライン授業の良い面の指摘もありましたが、多くは悪い面の指摘でした。

**問 19：お薦めのオンライン授業実践例（今後も継続させようと考えている・学生から良い反応を得た例など）があれば、以下に記入して下さい（最大 500 字程度）。**

### 回答の一部を抜粋

- ・動画教材を作らざるを得なくなって、結果的に、反転授業形式になりました。動画は今後も利用できるの、反転授業形式を継続して、演習部分により力を注ぎたいと思っています。

- ・ある哲学的な問題についていくつかの回答・立場を示し、現時点でどの立場が最も見込みがあるか、投票機能をつかって選ばせる。それを共有する。このようなことは対面授業でもできるが、オンラインの場合、このようなことをするとオンライン上ではあるが同じ授業に参加しているという感覚が増してくるようであった（学生のアンケートより）。
- ・オンデマンド型でも、掲示板機能を用いて、他の受講生の投稿にリプライをつけるという課題も併せて実施すると、受講生同士でやりとりができる。他の授業と違って、受講生同士のやりとりができて良かったという反応を授業の感想として複数もらった。授業のレスポンスシートの代わりに、第1回は感想・疑問、第2回はレスポンスというような進め方もできる。テーマを指定して書いてもらう場合でも、毎回別々のテーマを考え出すことは難しいかもしれないが、投稿と応答で2回分の課題になるので（再応答までやれば3回）、テーマの数は少なくなるし、何より、やりとりが深まるのが良い点だと思う。ただし、Microsoft Teams など、投稿件数が表示されないシステムだと、提出状況のチェックが大変になるので、注意が必要だと思う。
- ・Zoom の breakout room を使った、グループディスカッションは、自分も各グループに参加して、一緒に英語で取り上げているトピックについて話し合いができて良かったと思います。学生の考えを知ることができたり、学生にアドバイスを与えたりできました。
- ・掲示板であれ SNS であれ学生からの質問や感想へのレスポンスをこまめにすることが満足度につながるようです。ポータルサイトを活用すると小テストの採点が自動化されている分かえって手軽でした。
- ・資料提示や手書きの板書をソフトウェアで行うのは非常に使い勝手が良い。
- ・対面授業がはじまっても、Zoom での配信（録画）とチャット機能は活用を継続すると思う。
- ・動画配信の場合、YouTube の利用が、学生に慣れたインターフェイスだという点で、非常に好評価だった。
- ・音声付きパワーポイントは学生さんからの反応がよかったです。また、ときどき「復習用」に Zoom を取り入れると、さらに定着がよいです。
- ・ニュース記事などをその場ですぐに提示できる点は好評だった（対面でプリント配布などより煩雑でないし、同じ画面に表示されるので多くの人が見てくれるようだ）。Google クラスルームの課題機能は、ループリックで採点基準をあらかじめ入れておけてレポートに便利だった。
- ・授業の準備がたいへんで、ときどき追いつかなくなるため、TedTalks の優れたトークを選んで授業を補完しました。英語ですが、多くのものは日本語の字幕がついています。

### 【結果概要】

- ・学生同士の議論を促すさまざまな具体的な方法やツールが紹介されています。その多くがオンライン授業が導入されることによって導入が促されたものであるように思われますが、対面授業が再開しても引き続き活用できるものが多いのではないのでしょうか。

**問 20：今後オンライン授業を継続していく上で、準備しておきたい（知っておきたい・やっておきたい）こと、あるいは、教育機関に求めたいことなどがあれば、以下に記入して下さい（最大 500 字程度）。**

### 回答の一部を抜粋

- ・you tube の制限付き公開機能。Zoom についてもよくわからないことでまだまだあるので、学びたい。

- ・ Zoom や Google Classroom などのツールの使用法の習熟を勧めていきたい。
- ・ オンラインの活用により、大学の垣根を取り払うことができます。他大学の他の教員が作成した授業を使わせてもらったり、自分が作成した授業を発信したりといったことを、積極的に進めていきたいと思います。言い方を変えれば、これまで、教育用リソースの共有は「教科書」という形態に限られていましたが、これからは、オンラインの授業そのものが共有リソースになると考えます。文科省等からも、そうした試みは積極的に進めるようにとの方針が出ていると聞きますから、あとは教員の意欲次第ではないでしょうか。学会のような組織にも、そのハブとしての役割を担うことが期待されます。
- ・ オンライン授業の利点も様々に見つかったと思われるので、感染状況がおさまったからといって無条件に全ての授業を対面に戻すということはしないで欲しい。オンライン授業も有効に使い、教育の質を高めるという方向で各大学には創意工夫をして欲しい。
- ・ オンデマンド授業は音質がとくに重要だという点は、もっと周知されるべきだと思う。音質が悪いと、長時間聴くのは辛い。今後に備えてすこし良い音響機材を整備したい。また、そうしたアナウンスや教育経費の支援も積極的に必要ではないかと思う。なお、所属先では、無線マイクではなく、安価でもよいから有線マイクを使うようにと前期の途中でアナウンスがなされた。
- ・ ハイブリッド講義はやめるべき（専任のスタッフがつくのであれば別ですが）。
- ・ 現在、非常勤先はハイブリッド授業で Webex の利用を推奨しており、サポーターも常駐しているのだが、Zoom など他のソフトを利用する際の補助が困難な状況なので、どの環境でも授業が進行できるようサポーターを増員してほしい。
- ・ 試験実施のサポート（遠隔受講生へのプロクタリングなど）。
- ・ 自分の勤務先も含めて改善してほしいのは学内のネット環境の悪さ。有線でつながるスペースも少ないし、学内で wifi がつながらないエリアがあまりにも多すぎる（対面とオンラインが混在する場合は学内でネットをつないでオンラインで受講することになるので、ネット環境は重要）。
- ・ オンライン授業を受ける学生のネット環境を整備しておくことが重要だと思います。時々、ネット環境が悪く、提出物が期日までに提出できなかった、授業時に出席できなかった等、メールにて届いたりした場合、公平性を考えて、どのように扱うかを考えました。
- ・ 教育機関でマニュアルやアカウント利用方法の統一など、アナウンスをしっかりとしてほしい（とくに非常勤講師への対応）。

### 【結果概要】

- ・ 教育機関に改善を求める要望が多く見られましたが、オンラインの活用によりこれまでにない大学教育のあり方を積極的に提案するような回答も見られました。

<sup>1</sup> この間に関して、「講義形式の授業を担当した方のみ回答して下さい」と説明していたにもかかわらず、アンケート実施当初には、何らかの回答をしないと先に進めない「必須」設定にしておりましたことを、お詫び致します。

<sup>2</sup> アンケート実施時には、誤って"Microsoft Meet"と表記していました。以下、同様の箇所は同様に訂正してあります。

<sup>3</sup> この間に関して、「講義形式の授業を担当した方のみ回答して下さい」と説明していたにもかかわらず、アンケート実施当初には、何らかの回答をしないと先に進めない「必須」設定にしておりましたことを、お詫び致します。

---

## 編集後記

前号のニューズレターを刊行した頃、新型コロナウイルス感染症の世界的大流行がここまで大きく、また何度も波が繰り返されるものだと本心から予想していた人は決して多くなかったことと思います。大学を初めとする高等教育機関での教育のあり方は、この一年間で大きく変わりました（そして、その変化の過程は今もお継続しています）。それを象徴するのがオンライン授業でした。それは、とりわけ哲学教育に対してどのような影響を及ぼしたのでしょうか。そのような問題関心から、本ニューズレターは、オンライン授業に関するアンケートを実施しました。ご協力下さった皆様に改めて御礼申し上げます。アンケートの結果は、2021年度が始まる前にできるだけ早くお伝えしたいと思っていましたので、それが実現できなかったのは残念ではありますが、今回のアンケート結果が会員の皆さんの教育活動に少しでも役立つことがあれば幸いです。

なお今号は、アンケート結果の報告で多くの紙幅を費やすことになったため、会員の皆さんから情報を提供して頂くことはしませんでした。また、コロナ禍中ということもあり、この一年間で「国外学会参加費補助」制度の利用もありませんでした。

本ニューズレターは、学会員の間での自由な情報交換の場です。ご自分の研究の紹介や海外での研究経験の紹介、研究会の紹介といったものだけでなく、SNSでつぶやきたくなるようなちょっと気になることでも結構です。テーマは問いません。学会事務局が随時、投稿を受け付けていますので、皆さん奮ってご寄稿下さい！

(金杉武司)